

富岡周泰
細谷有策
粕谷昌男

えば人口20万人ぐらいの自治体では、住民票や戸籍などの証明書を年間10万件ほど発行していますが、申請者が住所や氏名を記入する時間や待ち時間に課題意識を持っている自治体も多く、デジタルを活用して書く時間や待ち時間を

ます。先日プロジェクトが終了した自治体に、さつくばらんにどうだったかと尋ねたところ、「正直、最初は自分た

ちでもやれるのに面倒な人たちが来たなって思ってた」って（笑）。でも、「進行政管理やBPRの整理の仕方を吸収できたのは本当に良かった」と言っていただし、結果として良い関係が築けた実感があります。

富岡 我々の伴走支援が終
わった後も継続してDXを進
めていく気持ちとスキル、や

り方をしっかりと身に付けてもらうことが重要で、そうした意味ではフェイス・トゥ・フェイスでのコミュニケーションは大きな価値があると思います。

—— 実際に現場に入るときに気を付けていることは。

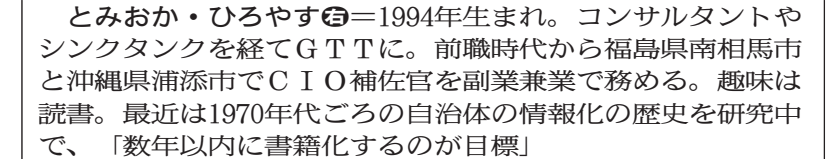
仕事が進められるのは、GT
Tならではの強みだと考えて
います。

粕谷 民間委託では契約の
範囲内の仕事となりますが、
伴走支援では、内容を柔軟に
変えていけることも利点です
ね。初めにゴールを決めます
が、状況が変わったのでやり
方を変えましようと提案した

範囲内の仕事となりますが、

伴走支援では、内容を柔軟に変えていけることも利点ですね。初めにゴールを決めますが、状況が変わったのでやり

方を変えましょうと提案した



ほそや・ゆうさくⒶ＝1983生まれ。証券会社を経て関東地方の基礎自治体で15年ほど働いた後に参画。現在、窓口DXチームのリーダー。4月に小学生になる娘と手をつないで散歩するのが楽しみといい、「家族と過ごす時間を、仕事への活力に変えている」

かすや・まさお☞=1978年生まれ。民間企業に20数年勤めて昨年4月からGTTに。週末は家族と共に過ごし、平日は奥さんに任せっきりの子どもの世話にいそしむ「週末イクメン」。

望にも単年度でのお付き合いではないため、柔軟に対応しています。状況に合わせて二番いい進め方でサービスを提供できるのがポイントだと思います。また、プロジェクト終了後も、スポット相談といった、継続的に悩みを相談できる仕組みもあります。

——窓口DXを検討中の自治体にメッセージを。

細谷 デジタルを使って何か進めたいが難しいといった悩みを持っている自治体はぜひ、気軽にいつでもご相談してください。DXは現場の皆さんで進めることもできますが、客観的な視点で私たちが定期的に伺って進めることで、背中を押す作用もあると思います。